

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名

長 崎 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	新魚目町立北魚目中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1		3	11
生徒数	27	27	33		87	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図る教育課程の工夫
～個がいきる活動をとおして～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年の教育課程全般

- ・学校教育目標「豊かな心を持ち、自ら学び自ら鍛え、自他を大切にする生徒の育成」を達成するための機会と場をいかに設定することができるか、本校に与えられた諸条件を活用し教育課程の編成・実施・評価について研究するため。
- ・地域・保護者の願いに応えるためには知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を育むことが大切であると考えたため。
- ・生徒の実態から明らかになった課題「粘り強さや主体性が不足している」、「物事を工夫したり、自ら課題を発見し学習を進めていくのが苦手である」、「自らの思いを表現することが苦手である」を克服し、生きる力を育成するため。

全学年の数学

免許所有教員と免許外教員間T・Tでの効果的な授業の運営と、個に応じた指導の展開の工夫を行う。

全学年の理科

どのような単元、内容で少人数指導（コース別、習熟度別）、T・Tを行うことが効果的なのか検証する。

(2) 年次ごとの計画

14
年
度

テーマ 「個をいかにするための教育課程の編成の工夫と授業改善」

研究の見通し（仮説）

生徒の実態に応じた教育課程の編成を行い、授業・諸活動の時間において個をいかに指導方法と評価の工夫を実践していけば、生徒は基礎的・基本的な内容を身につけ個性を生かすことができ、「生きる力」に必要な自ら学び、自ら考え、自ら行動する力が育成されるであろう。

研究の内容・方法

本年度は3つの研究部を立ち上げた。

教育課程編成部 活動テーマ「個の活動を支える教育課程の工夫」

日課・時間割の工夫

ア 朝自習の時間「モーニング読書」（8：10～8：20の10分間）

イ 昼食指導（12：30～12：40の10分間）

ウ スペリングコンテスト（諸活動の時間；月、木曜の6時間目14：25～15：15）月に一度英単語のテストを行っている。

エ ステップタイム（諸活動の時間）

数学の基礎学力の向上を目標に始めた。個別学習で各自が自分の

レベルにあわせた問題を解き、解答を見ながら採点していく。問題は数学の教師が作成。学年担当の全職員で指導している。全問正解で次の級に進んでいく。1級から60級までの問題を作成した。

オ 1単位時間の弾力的運用と週時間割の弾力化
7.5分授業、2.5分授業を学習活動の特色に応じて設定している。毎週、週時間割を学校の実態に応じて編成している。

カ 1分間スピーチ
生徒は要点メモを見て発表し、自己評価も行っている。

選択教科の履修幅の拡大
総合的な学習の時間
道徳教育

授業研究部 活動テーマ「授業の中で個を生かす工夫」

授業改善

- ア 研究授業の計画と実践，教員間の授業公開
- イ T・Tによる指導
- ウ 授業の見通しについて
学習課程を「つかむ」「見通す」「確かめる」「まとめる」とし、特に「見通す」場面における支援・指導の工夫に重点を置いた。
- エ 班学習について
- オ 授業規律について
- カ 授業中の評価材料の収集について
- キ 授業改善強調月間の設定
- 先 進校の資料の集積

評価研究部 活動テーマ「個が見える評価の工夫」

絶対評価への対応

- ア 観点別評価の総括と評定への総括
- イ 通知表の作成と保護者への説明
- 研究の評価について
- ア 生徒へのアンケートの実施
- イ 教科アンケート
- ウ 学力診断テスト

平成
15
年度

テーマ

- (1) 「生きる力」の育成のため、本校の実態に即した「個がいきる活動の場づくり」を目指し、教育課程を工夫・改善し弾力的な運用を図っていく。
- (2) 「確かな学力」向上のため、一人一人の個性等に応じて基礎・基本を確実に定着させるための「きめ細かな指導・支援」の在り方を追究する。

研究の見通し（仮説）

生徒の実態に応じた教育課程を編成し、授業・諸活動の時間において個がいきる活動の場を設定し指導法を工夫をしていけば、生徒は基礎的・基本的な内容を身につけ「生きる力」に必要な自ら学び、自ら考え、自ら行動する力が育成されるであろう。

研究の内容・方法

本年度も3つの研究部を設け、保護者や地域の方々とも連携し実践を進めている。

教育課程編成部 活動テーマ「個の活動を支える教育課程の工夫」

(1) 日課・時間割の工夫

朝自習の時間「モーニング読書」(8:10～8:20の10分間)

今年度から生徒に読書ノートを作成し配布している。

スプリングコンテスト(諸活動の時間；月、木曜の6時間目14:25～15:15)月に一度英単語のテストを行っている。今年度からリスニングを含めた。

ステップタイム(諸活動の時間で月に2時間)

小学校から中学3年までの基礎的内容を1級から8.5級に分け、今年度から各級の問題にヒントカードを加え、自学を進めやすくした。学年担当の全職員が主に支援を要する生徒につき「ステップタイム指導記録簿」を利用し、数学の授業や次回のステップタイムにいかしている。

1単位時間の弾力的運用と週時間割の弾力化

75分授業，25分授業を学習活動の特色に応じて設定している。
毎週，週時間割を学校の実態に応じて編成している。

1分間スピーチ

生徒は要点メモを見て発表し，自己評価も行っている。また，他の生徒はスピーチの感想を発表している。

(2) 選択教科の履修幅の拡大

(3) 総合的な学習の時間

トライアルタイム

テーマ「地域に生まれ，地域に生き，地域に働きかけ
地域から学ぶ総合的な学習の時間」

創造性を高める学習

全校生徒一人一人が自分の考えを原稿にし，学級全員と保護者の前で発表する学級弁論大会を行っている。

授業研究部 活動テーマ「授業の中で個を生かす工夫」

(1) 授業改善

T・Tによる指導（少人数指導を含む）

授業の見通しについて

学習課程を「つかむ」「見通す」「確かめる」「まとめる」とし，特に「見通す」場面においての支援・指導の工夫に重点を置いた。

研究授業の計画と実践，教員間の授業公開，指導案

授業中の評価材料の収集について

評価項目を絞り，座席表をつけた名簿や評価シートを利用した。

班学習について

各人の役割分担を明確にし，授業への積極的な参加を促した。

評価研究部 活動テーマ「授業改善につながる評価の工夫」

(1) 絶対評価への対応

評価規準の作成について

本校の基準について

通知表の作成と保護者への説明

(2) 研究の評価について

生徒へのアンケートの実施

教科アンケート

(3) 学力診断テストの分析とその対応

標準学力検査の考察

各教科ごとの考察と今後の対応

平成
16
年度

テーマ

- (1) 「生きる力」の育成のため，本校の実態に即した「個がいきる活動の場づくり」を目指し，教育課程を工夫・改善し弾力的な運用を図っていく。
- (2) 「確かな学力」向上のため，一人一人の個性等に応じて基礎・基本を確実に定着させるための「きめ細かな指導・支援」の在り方を追究する。
- (3) 学習指導要領に示す目標に照らして，その実現状況を見る評価方法を確立し，生徒の個性を伸張させるために有効に機能する評価をめざす。
- (4) 学力向上フロンティアスクールとして，本校の実践研究の内容を公開研究会やウェブページ等を利用した情報発信を行い近隣校に伝えていく。

研究の見通し

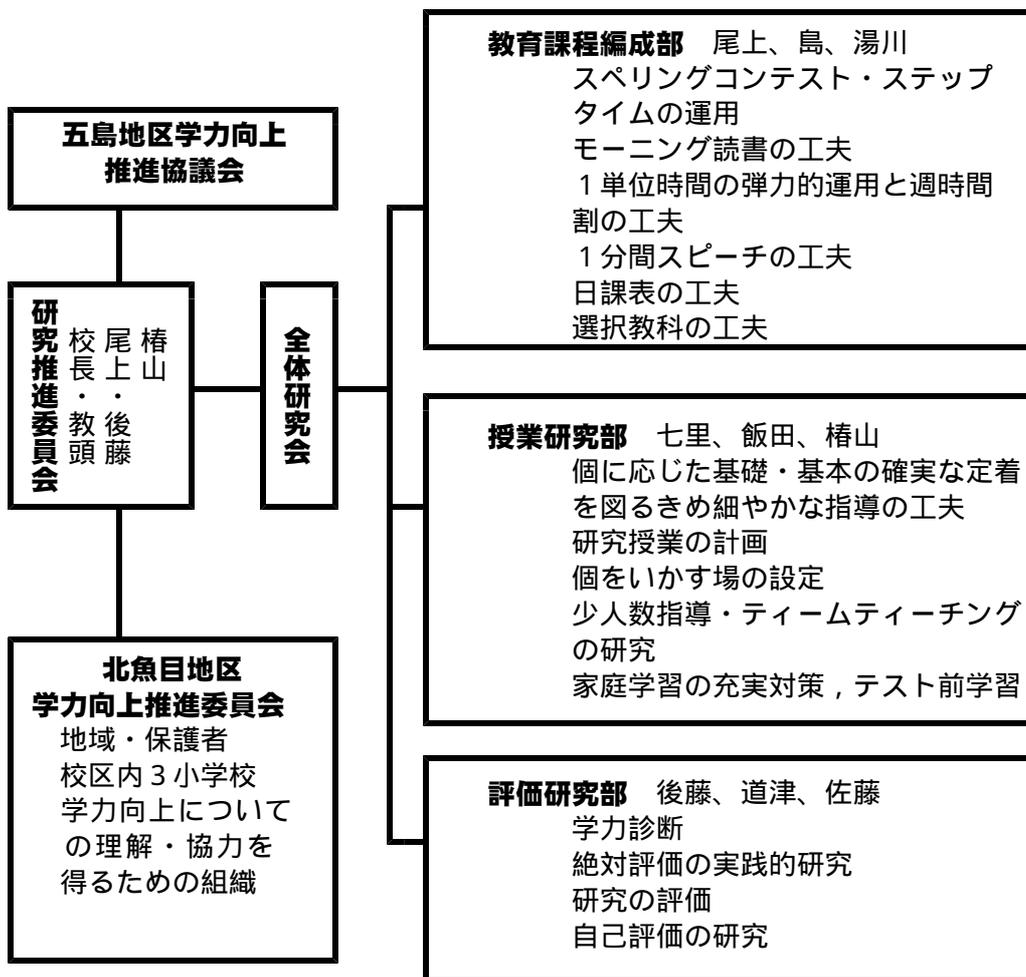
- ・授業の中で個がいきる場（機会，時間，教材）を設定する工夫。
- ・年間指導計画・単元指導計画整備により教育課程の弾力的運用を進める。
- ・評価規準の作成，改善。

研究の内容・方法

16年度も3つの研究部を設け，保護者や地域の方々とも連携し実践を進めていきたい。特に課題解決型学習を推進し，どのように個を生かしていくか追究していく。

また，3年間の成果と課題をまとめ五島管内の全中学校参加の公開授業を伴う発表会を行い，近隣の学校や地域に実践研究の成果を公開する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

ステップタイムについて（生徒アンケート結果から）

- (1) ステップタイムが有効であると感じている生徒が，1学期83%から2学期89%と増えている。
- (2) 昨年度は学期をおうごとに意欲の減退がみられたが，本年度は意欲的に取り組んだと答えた生徒が，1学期58%から2学期68%と増えている。
- (3) 目標基準準拠検査（CRT）2年生数学で全国平均を100とした場合，数と式；103，図形；122，数量関係；103と3観点とも全国平均を上回っている。
- (4) 現3年生は2年生2月時の県基礎学力調査数学で，県平均63，8にたいし69，3という結果を出している。
図書室の年間本貸し出し冊数が，全校生徒一人あたり平均30冊を越えた。

2. 今後の課題

- (1) 本校の特色ある取り組みのうちステップタイム、スペリングコンテストの運営方法の改善を行い、生徒の意欲を高める工夫を行うこと。
- (2) 課題解決学習や班学習に取り組み、生徒の表現力や自ら学ぼうとする力を高める授業を創造すること。
- (3) 生徒の変容を基に、本研究の成果を評価すると共に、フロンティアスクールとして近隣校への情報発信（2学期の研究発表会を中心に据える）を行う。

学力把握のための学校としての取組

<p>目標基準準拠検査（CRT） 15年4月22日 全校生徒対象に5教科基礎学力の状況を観点別に診断し、授業改善にいかしていく。</p> <p>集団基準準拠検査（NRT）3年；2月19～20日 1・2年；3月3～4日。全学年とも5教科実施。</p> <p>教科アンケートと学習アンケート（毎学期）</p> <p>県の基礎学力調査結果の考察</p>

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）</p> <p>【平成14年度】</p> <p>(1)中間指導</p> <p>第1回中間指導 14年 7月15日（研究授業，授業研究，全体指導）</p> <p>第2回中間指導 14年12月11日（研究授業，授業研究，全体指導）</p> <p>第3回中間指導 15年 2月25日（研究授業，授業研究，全体指導）</p> <p>(2)教頭研修会での発表</p> <p>長崎県教頭研修会 14年 8月 7日</p> <p>上五島地区教頭研修会 14年10月 7日</p> <p>五島教頭研修会 14年10月15～16日</p> <p>(3)管内新任教務主任研修会での発表 14年 6月18日</p> <p>(4)管内教育課程研究協議会での発表 14年 8月20日</p> <p>【平成15年度】</p> <p>(1)中間指導</p> <p>第1回中間指導 15年 7月 1日（研究授業，授業研究，全体指導）</p> <p>第2回中間指導 16年 2月26日（研究授業，授業研究，全体指導）</p> <p>(2)公開研究発表会 15年11月18日（公開授業，ステップタイム，全体会）</p> <p>(3)管内教育課程研究協議会での発表 15年8月6日</p> <p>(4)教育ながさき11月号に掲載「特色ある教育課程の編成」</p> <p>【平成16年度】</p> <p>(1)中間指導 16年 7月</p> <p>(2)公開研究発表会 16年11月</p> <p>フロンティアティーチャラーの活動 15年8月6日</p> <p>・10年経過研修教員に対する学力向上フロンティア事業の説明</p> <p>・ウェブページ作成 http://www.ocn.ne.jp/~kitachu/index.html</p> <p>ステップタイムの問題をすべてCDにおさめ、11月の発表会に参加した中学校に配布した。また発表会の前後にも問い合わせがあり配布した。</p>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
- 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無